



様式第2号（第5条関係）

略 歴 調 書

令和5年（2023年）5月16日

(ふりがな) 氏 名		(きたの せいごう) 北 野 正 剛	生年月日	昭和25年1月15日生（満73歳）
最 終 学 歴		九州大学大学院医学研究科 修了		
専 門 分 野		消化器内視鏡外科		
学 位 称 号		医学博士（九州大学）		
学 歴				
年 月		事 項		
昭和51	3	九州大学医学部卒業		
昭和52	4	九州大学大学院医学研究科入学		
昭和56	3	同上 修了		
職 歴				
年 月		事 項		
昭和51	6	九州大学医学部附属病院医員（第二外科）		
昭和56	4	福岡市立第一病院（外科）		
昭和56	10	国立療養所福岡東病院（外科）		
昭和58	5	ケープタウン大学（外科 Senior consultant doctor）		
昭和59	5	九州大学医学部附属病院助手（第二外科）		
昭和62	4	九州大学医学部併任講師（第二外科）		
昭和63	10	九州大学医学部附属病院講師（第二外科）		
平成2	4	済生会八幡総合病院（外科部長）		
平成4	4	九州大学医学部附属病院助手（第二外科）		
平成4	5	九州大学医学部附属病院講師（第二外科）		
平成5	5	大分医科大学医学部助教授（外科学講座第一）（科長代行）		
平成8	4	大分医科大学医学部教授（外科学講座第一）		
平成15	10	大分大学医学部教授（外科学講座第一）（統合のため、名称変更）		
平成17	4	大分大学医学部副学部長		
平成17	7	大分大学先端医工学研究センター長		
平成19	10	大分大学医学部附属病院内視鏡診療部長		
平成21	4	大分大学医学部副学部長		
平成21	10	大分大学全学研究推進機構重点研究推進分野長		
平成23	10	大分大学長		
			現在に至る。	

所 属 学 会	日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本癌治療学会、日本創傷治癒学会、日本胃癌学会、日本高齢消化器病学会、日本臨床外科学会、International Federation of Societies of Endoscopic Surgeons、Society of American Gastrointestinal Endoscopic Surgeons、American College of Surgeons、International Society of Surgery、Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia、Asian-Pacific Society for Digestive Endoscopy、World Organisation of Digestive Endoscopy など
学会及び社会における活動	<学会等> 日本消化器外科学会名誉理事長、日本内視鏡外科学会名誉理事長、日本消化器内視鏡学会顧問、日本高齢消化器病学会名誉会員、日本創傷治癒学会名誉会員、日本肥満症治療学会特別会員、日本医工ものづくりコモンズ理事、NPO 法人がんの早期診断・治療に必要な病理診断の総合力を向上させる会理事、公益財団法人内視鏡医学研究振興財団顧問、腹腔鏡下胃切除術研究会代表世話人、内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会代表世話人、先進内視鏡治療研究会（Japan Consortium for Advanced Surgical Endoscopy: J-CASE）顧問、癌・炎症と抗酸化研究会（CIA）代表世話人、日本禁煙学会理事、一般社団法人アジア医療教育研修支援機構（AMETS）理事長、アジア内視鏡人材育成支援大学コンソーシアム（UCDELSA）運営委員長、メディカル・イノベーション・コンソーシアム（MIC）名誉理事長、Dr. Style TV 「がん魅せ技」編集主幹、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）Program Supervisor、公益社団法人国際化粧療法協会理事長、一般社団法人日本ルックスケア医学会理事長、International Federation of Societies of Endoscopic Surgeons（IFSES）元会長、The Asian-Pacific Society for Digestive Endoscopy（APSDE）会長、Mekong Endosurgery Development Association（MESDA）会長、Asia Endosurgery Task Force（AETF）初代会長、Asia Pacific Society for Digestive Surgery（APSDS）Executive Member、The Royal College of Surgeons of Thailand Honorary Fellow、Asia Pacific Endo-Lap Surgery Group（APELS）Vice Chairman、Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia（ELSA）Honorary Member/Court of Honor、International Society of Surgery（ISS）前日本支部会長、Minimal Access Surgery Training Centre、Pamela Youde Nethersole Eastern Hospital Hong Kong Honorary Advisor/International Advisory Board <大分県> 健康寿命日本一おおいた創造会議会長、「安心・活力・発展プラン 2015」推進委員会委員、大分県病院事業顧問、One Rugby, One Oita 推進委員会委員 <その他 各種団体等> 大分商工会議所顧問、九州環境エネルギー産業推進機構（K-RIP）理事、九州経済連合会会員、九州航空宇宙開発推進協議会副会長、おおいた地域連携プラットフォーム会長、特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいた理事長、特定非営利活動法人おおいた水フォーラム理事長、公益財団法人大分県産業創造機構評議員、大分県経営者協会会員、大分経済同友会会員、大分日経懇話会会員、大分日米協会理事、大分県発明協会顧問、大分県弁護士会懲戒委員会委員、大分市国際都市交流親善会

	議顧問、おおいたホームタウン推進協議会副会長、九州フェンシング協会会長、大分県フェンシング協会会長、一般社団法人日本メディカルスポーツ協会理事、一般財団法人第一交通産業創業者黒土始基金理事 など
免 許・資格等	医師免許証（第 229894 号）、医学博士（九州大学） 日本禁煙学会専門医・専門認定指導者、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本体育協会公認スポーツドクター など
賞 罰	第 44 回日本消化器内視鏡学会総会会長賞 第 56 回大分合同新聞文化賞 平成 20 年度大分大学学長表彰 IAPCO Certificate of Excellence as 11th WCES President (2008 年) 平成 28 年度高松宮妃癌研究基金学術賞 平成 29 年 World Endoscopy Organization (WEO) ENDO2017 Sadataka Tasaka 名誉講演賞 令和 2 年一般社団法人日本消化器内視鏡学会 丹羽賞 令和 3 年公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団 令和 2 年度顕彰・研究助成賞
そ の 他 参 考 と な る 事 項	

(教育に関する業績)

平成 8 年 4 月～平成 23 年 9 月 (大分大学医学部第一外科学講座 教授)

- 1) 講 義：内容は主として消化器外科分野、担当数は学部 6 科目、大学院博士課程 3 科目担当
- 2) 学生指導：研究室配属学生 (毎年 2-3 名)、学部学生に対し臨床実習、外科手技指導
- 3) 博士論文の指導：これまでに 56 名の博士課程学生を主指導教員として指導
- 4) 消化器外科・内視鏡外科指導医の育成：教室員は多くの学会専門医、指導医を取得し地域医療の現場で活躍中
- 5) 海外留学生の指導：欧州、南アメリカ、アジア各国から 20 名の留学生を受け入れた。

平成 23 年 10 月～現在 (大分大学長)

- 1) 学部・大学院の改組 (福祉健康科学部の設置、学部の理工学部への改組、経済学部への社会イノベーション学科の設置、教職大学院の設置、工学研究科の改組、福祉健康科学研究科の設置、医学部先進医療科学科の設置、理工学部の一学科への改組、教育学部の入学定員増など)
- 2) 社会が必要とする実力をもった人材を養成し、大学教育の「入口」から「出口」までを一貫してマネジメントするため教育マネジメント機構を設置
- 3) 大分大学における教育等のデータの集約・分析を行い「エビデンスに基づく改革支援」を行うため IR センターを設置
- 4) STEAM 教育の戦略的な推進を担う STEAM 教育推進センターを設置

(研究に関する業績)

平成 8 年～現在 (大分大学医学部第一外科学講座 教授 及び 大分大学長)

- 1) 主たる研究領域：低侵襲治療を目指した内視鏡外科学
外科領域において「低侵襲手術」を積極的に取り入れ、世界で初めて胃癌に対する腹腔鏡下手術を開発。腹腔鏡下手術の普及に尽力し、腹腔鏡下胃切除術研究会をはじめとする 20 の研究会の代表世話人又は世話人を務めてきた。肥満治療や NOTES (Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery) といった新しい分野においても研究会を立ち上げた。国内での研究会や講習会に数多く関わった経験をもとに、2004 年より国際展開を始めた。現在ではアジア諸国においてハンズオントレーニングコースを開催し 8,000 名以上もの医師の育成を行っている。
- 2) 研究成果の公表
発表論文：原著 517 編 (欧文 460 編)、総説 517 編 (欧文 37 編)、著書 211 編 (欧文 31 編)、科研その他 309 編
特別講演又はシンポジウムでの発表：国際学会 368 回、国内学会 652 回
- 3) 主な主催学会：7 件
第 14 回日本門脈圧亢進症学会総会 (別府) 平成 19 年 9 月 6 日～7 日
第 74 回日本消化器内視鏡学会総会 (神戸) 平成 19 年 10 月 18 日～21 日
第 21 回日本内視鏡外科学会総会 (横浜) 平成 20 年 9 月 2 日～4 日
第 11 回世界内視鏡外科学会大会 (横浜) 平成 20 年 9 月 2 日～5 日
第 43 回日本創傷治癒学会 (大分) 平成 25 年 11 月 14 日～15 日
第 15 回日本禁煙学会学術総会 (大分) 令和 3 年 10 月 15 日～16 日
第 2 回国際化粧療法医学会 2021 (WEB) 令和 3 年 11 月 11 日
主催学会・研究会 (地方会を除く) 95 回、主催トレーニングコース 221 回、手術ライブデモ 30 回
- 4) 科学研究費補助金 (主任及び分担)
厚生労働省科学研究費 28 件、文部科学省 (日本学術振興会) 研究費 20 件

特に、厚労省科研「進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の確立に関する研究」(北野班)(主任研究者:平成15~17年度、平成18~20年度、平成21~23年度及び平成24~25年度)では、多施設共同第Ⅲ相臨床試験の研究代表者を務め、1,057例の登録を成功させた。

- 5) 3つの国内外一流雑誌のEditor in chief、18の国際雑誌のEditorial Board、平成16年より日本学術振興会の研究審査委員
- 6) 平成27年4月より日本医療開発機構(AMED)のProject Officer、平成29年10月より同機構のProgram Supervisorに就任
- 7) 学会活動
平成18年から2年間は日本消化器外科学会理事長、平成22年から6年間は日本内視鏡外科学会の理事長を務めた。その他国内における全国医学会の理事・顧問を務め、所属国内・国際学会は20を超える。国際学会においては、Asian-Pacific Society for Digestive Endoscopy (APSDE)、Mekong Endosurgery Development Association (MESDA)の理事長を務めている。内視鏡外科の分野でも、2004年からアジア諸国のリーダーを構成員とするAsia Endosurgery Task Force (AETF)を立ち上げた。官民ミッションも含め、現在までに、APSDEとMESDAの活動を通してアジア諸国における海外医療教育や若手医師人材育成の取組を行っている。
- 8) 大分大学初の全国共同利用型施設となるグローバル感染症研究センターを設置
- 9) 大分大学の研究力強化に向け研究マネジメント機構を設置
- 10) 研究活動を活性化する役割を担う専門職種であるリサーチ・アドミニストレーター(URA)制度を構築

(経営・管理運営に関する業績)

平成8年 4月1日	大分大学医学部第一外科学講座教授(～平成23年9月30日)
平成17年 4月1日	大分大学医学部副学部長(～平成19年3月31日)
平成17年 7月1日	大分大学先端医工学研究センター長(～平成21年9月30日)
平成19年10月1日	大分大学医学部附属病院内視鏡診療部長(～平成23年9月30日)
平成21年 4月1日	大分大学医学部副学部長(～平成23年9月30日)
平成21年10月1日	大分大学全学研究推進機構重点研究推進分野長(～平成23年9月30日)
平成23年10月1日	大分大学長

(その他(国際交流、地域貢献等)の業績)

- 1) 「アジア内視鏡人材育成支援大学コンソーシアム(UCDELSA)及び病院コンソーシアム(HCDELSA)」から成る「一般社団法人アジア医療教育研修支援機構(AMETS)」を設立し、アジア諸国への幅広い医療人材育成及び医療支援に向けた取組を実施
大分大学と海外(31の国・地域)の教育・研究機関との国際交流協定は100協定(学部間協定を含む。)
- 2) 産学共同のプロジェクト推進、大分県外科医会の会長(平成26年4月～平成29年3月)として地域医療の発展に貢献
- 3) 高度救急救命センターを設置し、医学部附属病院を機能強化
- 4) 多様性を認め、性別に拘わらず、一人ひとりがその能力を十二分に発揮できる大学づくりに取り組むためダイバーシティ推進本部を設置
- 5) 地域課題の解決に取り組むため地域連携プラットフォーム推進機構を設置
- 6) 自然災害に対する地域の安全・安心社会への構築に寄与すべく減災・復興デザイン教育センターを設置
- 7) 安全・安心かつ持続可能な地域形成社会に寄与するためクライシスマネジメント機構を設置